

安楽寺だより

第35号

紙面内容

- 2面 会館20周年記念イベント
- 3面 22組同朋大会開催
- 4面 日本仏教史⑱ 昭和時代(下)

編集・発行 安楽寺住職 吉田 和良
 名古屋市瑞穂区井戸田町一の八〇
 電話 〇五二(八四一)二六〇六



春季 永代経を厳修

五月十三日、春季永代経をお勤め致しました。朝から晴天に恵まれ、ご門徒の皆様八十余名のご参詣をいただきました。二十二組の住職方の読経の中、ご参詣の皆様は、亡き故人を偲んでご焼香していただき

きました。その後本澄寺住職・柳野明仁師のご法話をお聞き致しました。柳野師には、十数年ご出講戴いております。今年、蓮如上人の御一代を顕した御絵伝をスクリーンに映して、より解りやすくお話ししていただきました。

「蓮如上人は本願寺第七代存如上人の長男としてご誕生されましたが、六歳で実母と生き別れ、辛い少年期を過ごされました。叔父の如乗の助力により、十七歳で得度されて以降、親鸞聖人のお書物などを通して浄土真宗のおしえを深く学ばれました。

「四十三歳で第八代上人を継承されて以降、御文(おふみ)を次々と執筆されて全国各地の門徒衆に送ってご教化され、本願寺再興を担われていきました。

「五十一歳のとき、大谷本願寺が比叡山の僧たちに破却されるという困難に遭われながら、『弥陀の本願を信じ、ただ念仏する』真宗の真髓を門徒衆にひろく説いて歩まれたお姿が全国各地に伝えられています。

「また、蓮如上人のご功績は、私たちが毎日お勤めしている『正信偈・和讃』を出版され、真宗のお勤めの礎を定められました。

「永代経は、あることがあたりまえとしてしか生きられない私が、亡くなられた先人のおかげで今があると気付かされる法要です。」

柳野師に「真実の道しるべ」である真宗お念仏のおしえに出遇って、いのちの根源から沸き起こる願いにふれることの大切さをお話ししていただきました。

「御文」によりお念仏のおしえをひろめる

平成十年十一月に開設しました安楽寺会館は、おかげさまで二十周年を迎えました。

四月二十八日、記念イベントを開催いたしました。四年前に会館玄関前に設置しましたAEDを、地域の皆様に広くお伝えする行事として企画しました。当日は、ご門徒の皆様・地域の皆様など二〇〇名を超えるご出席をいただきました。

午後一時より、第一部のAED講習は、井戸田消防団にご協力いただいていた行ないました。AEDの使用方法を団員の皆様による救助実演してご披露いただき、そのあとご出席者参加の講習・質問に、丁寧に答えいただきました。



安楽寺会館20周年記念イベント



午後二時からの第二部は、東海地方を中心にご活躍のタレント・きくち教児様の司会で始められました。小学生中心のN☆JEWELによるチアダンス、メデイカルプロレスの皆様による「AEDパフォーマンス」には、拍手と歓声で大いに盛り上がりました。楽しくAEDを学び、誰もが利用できることを実感していただけたと思います。

千曲匠弥会の皆様の踊りにつづき、ご登場いただいた、あべ静江様のすばらしい歌声に、ご出席者全員がウツトリ聞き入りました。

安楽寺会館は、これからも、ご門徒・地域の皆様にご利用いただきやすい施設として運営いたしますので、ご協力宜しくお願いいたします。

22組同朋大会を開催

三月十六日、二十二組同朋大会が、一二〇名の住職・ご門徒の皆様ご出席の中、開催されました。安楽寺から十三名の皆様が出席いたしました。岡田秀規二十二組組長挨拶の後、「教如上人と東本願寺」と題して、同朋大学非常勤講師・青木馨さん（写真左）にご講演いただきました。

「教如上人は、一五五八年（永禄元年）本願寺第十一代・顕如上人の長男として誕生されました。その頃、戦国大名織田信長は各地で戦をして勢力拡大を図っていました。また信長は、伊勢一向一揆や越前一向一揆を壊滅させ、比叡山延暦寺へ攻撃の鉾先を向けていました。

2組 同朋大会



「一五七〇年（元亀元年）石山本願寺顕如上人は信長と合戦を始め、三度和睦をしましたが、一五八〇年（天正八年）に退却せざるを得なくなりました。教如上人は戦乱の世に翻弄される中、本願寺第十二代を継承するも、豊臣秀吉の裁定により、弟・准如に譲らざるを得なくなりました。

東本願寺初代・教如上人

講演終了後、懇親会を催しました。最初に二十二組有志で二年前に結成されたコーラス「百歌繚乱」の皆様による「絆」など二曲の合唱（写真右）を聞き、その後ご出席の皆様と会食をして交流を深めました。

秀吉の死後、教如上人は、徳川家康より京都烏丸六条の寺地寄進を受け、一六〇二年（慶長七年）東本願寺を開かれました。教如上人は、「末寺・ご門徒への教化を怠ることになつてはならない」と、他の大名からの寺領寄進申し出を断られました。それは、諸国の末寺・門徒に『阿弥陀仏の本願を信じ、御恩報謝のおしえをお伝えする』そして『帰依信施をもって本廟を相続することが、寺門の本意』（三河大谷派記録）との強い思いからだと思われまます。



春彼岸法要を勤める

三月二十二日、八事霊園墓地で春のお彼岸法要をお勤め致しました。朝から晴天に恵まれ、大勢の皆様にご参詣をいただきました。永代供養墓には、八十名を超える皆様にご参詣をいただきました。

十時三十分より墓前でお勤めするなか、皆様にご焼香をして頂き、亡き方々を偲んでおられました。ありがとうございました。



永代供養墓参詣の皆様